

肺移植と学術会議

藤村 重文

日本学術会議は、1948年創設以来今日までわが国の科学発展のために活動してきた。学術会議は専門分野ごとに分かれ、会員210人の任期は3年である。創設以来これまで主題内容や制度も変遷し、会員の選出制度によって三世代に分けられる。第一世代（第1期；1948年～第12期；1984年）の36年間は全国の登録科学者による選挙で会員選出がなされた。第二世代（第13期；1985年～第19期；2005年）は、全国の学術団体からの推薦制による会員選出である。第三世代（第20期；2005年～）は、学術会議法一部改正によって、多様化する学術全領域に対応すべく、特に選ばれた30人の委員からなる会員選挙委員会（内閣府）により選出された。その際、同委員会は全国の大学や研究機関へ候補者の情報提供を依頼して、その資料をもとに会員210名が選出されている。（金岡祐一・17期第七部部長ほか：「日本学術会議第七部のあゆみ」、日本医歯薬アカデミー、2006年）。

私が関わったのは第二世代の最終時期の18期（2000年7月～2003年9月；吉川弘之会長）と19期（2003年～2006年7月；黒川清会長）であったが、その6年間を省みると、現在でもなお充実感が残っている。

私は2000年3月東北大学を退官するまで37年間、呼吸器外科を研鑽しながら肺移植の臨床応用を目指して研究生を送り、退官3日前に日本における第1例の肺移植臨床例を経験することができた。退官の年に学術会議会員に推挙された。私が1963年以来臨床応用を目指してひたすら行ってきた肺移植の研究は、研究モデルとして当初から主としてイヌが用いられたが、1980年代以降はラットが加わり、1990年代からはニホンザルも用いて、移植手技からはじまり、拒絶反応抑制法、肺移植拒絶反応の診断法、移植肺の病態生理、肺保存等の臨床応用にかかわるものであった。研究では片肺移植のほか両側の自家肺および同種肺移植モデルなどを作成した。

肺を含む臓器移植においては、脳死が人の死であるということの法整備が必須であるが、日本社会の理解は欧米に比べてなかなか進まなかった。世論の流れに呼応して学術会議では積極的かつ着実な論議がなされ、第12期（本間第七部長）に「医学的に脳死は人の死である」と初めて認めた。1997年10月臓器移植法が成立し、2009年7月改正臓器移植法が成立した。

学術会議は18期当初、今日のわが国や人類が直面している多くの問題群を学術によって解決すべく二つの提案、すなわち人類的課題解決のための「日本の計画」（Japan Perspective）の提案と、学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案に向けて取り組むことになった。そのため「循環型社会特別委員会」、「農業・森林の多面的機能に関する特別委員会」、「ヒューマン・セキュリティの構築特別委員会」、「ジェンダー問題の多角的検討特別委員会」、「価値観の転換と新しいライフスタイル特別委員会」、「生命科学の全体像と生命倫理特別委員会」、「情報技術革新と経済・社会特別委員会」、「教育体系の再構築特別委員会」の8つの特別委員会が設置された。

私は呼吸器学研究連絡委員会・呼吸器専門委員会（委員長）に所属し、循環型社会特別委員会委員であった。

私が忘れえないことのひとつに、第18期3年間の最終年度に当たる2003年6月、徳島市にお

いて青野敏博徳島大学学長のお世話により開催された日本学術会議第七部夏期公開シンポジウム「生命科学の進歩と生命倫理」がある。シンポジウムでは渥美和彦座長（「生命科学の全体像と生命倫理特別委員会」委員長）のもと、同委員会委員を含む5名のシンポジストにより生殖医療（青野敏博会員）、ヒトゲノム遺伝子解析（中堀豊徳島大学医学部医学科長）、トランスレーショナルリサーチ（浅野茂隆会員）、生命倫理教育（齋藤史郎前徳島大学学長）、生命倫理と社会的合意（迫田朋子 NHK 番組制作局チーフディレクター）などについて討論された。シンポジウムでは、トランスレーショナルリサーチや生命倫理と社会的合意についての論議あった。「生命倫理と社会的合意」ではわが国における脳死臓器移植について多くの時間が割かれた。1997年「臓器の移植に関する法律」が施行されたが、同法では死体に含まれる脳死者の身体は生者と死者の両方の解釈が可能のため、脳死が人の死であるかについての立場が必ずしも明確でないことや、脳死判定の実施を本人の意思に委ねている点など、いくつかの矛盾を含んでいるなどの論議が私の記憶に強く残っている。

その後法律が改定されて、日本の移植事情は好転した。

本稿を終えるにあたり、2000年3月29日以来2013年末までに実施された日本における脳死肺移植は197例であることを付け加えたい。

●プロフィール

藤村 重文

日本学術会議第18・19期第七部会員

宮城県教育委員会教育委員長（2003年10月～2007年10月）

東北大学名誉教授

東北薬科大学病院（前東北厚生年金病院）名誉院長

日本肺・心肺移植関連学会協議会代表世話人

仙台青葉学院短期大学学長（2009年4月～現在）